

エバノフ教授のご退任にあたって

国際政治経済学部長 内 山 義 英

リチャード・エバノフ先生のご定年に伴うご退職に際し、学部長として、本学でのお勤めに対して、改めて御礼申し上げます。

先生は 1989 年に本学部に専任講師として就任されました。その後助教授、教授と昇進され、本学では 35 年以上の長きにわたって研究・教育に携わってこられました。本学部が創設されてから 40 数年ですので、学部の草創期からの変遷を間近に見てこられた方とも言えましょう。

エバノフ先生のご専門は国際倫理、環境倫理と伺っております。そうした専門だからだとは思いますが、哲学のことにも造詣が深く、私の専門である経済学での哲学的な思想もよくご存知であることに驚いた記憶があります。以前国際経済学科にいらした理論経済学者の太田浩先生とも、エバノフ先生は環境に対する考え方でかなり議論されていらっしゃったことを思い出しました。こうした光景は、まさに国際政治経済学部の学際的な研究を志向する特徴とも合致しており、とても心強く思った次第です。

エバノフ先生は学部の英語教育部門の取りまとめ役として、学部就任当初から精力的に動いて下さいました。英語教育に携わる教員は、外国人で非常勤講師の方々がたくさんいらっしゃいます。また毎年そうした非常勤講師の入れ替わりが発生します。そうした際の非常勤講師の方々との連絡や科目担当配置など、こまごまとした事務作業もこなして下さいました。さらには毎年の入試での英語問題の取りまとめでも年間を通して関わってくださり、その貢献度ははかりかねるぐらいです。

忘れてはならないエピソードがもう一つあります。エバノフ先生は 3 月末

に実施される新入生教育の時には毎年参加して下さり、緊張からか、顔もこわばっている新入生を前にして笑顔で英語で話しかけ、そしてギターを弾きながら歌いだしました。そうすると新入生の顔がほころび出し、最後には手拍子をしながらか一緒に歌っていました。この光景は私にとっても忘れられない、エバノフ先生のお人柄を体現していると思いました。

これまでエバノフ先生と同じ学部で仕事ができたと心より感謝申し上げるとともに、学部を離れることにはなりますが、先生のこれからの益々のご活躍を願ってやみません。本当にありがとうございました。